

町田健登の ワールドマーケットナビ



2022年からアメリカを中心として世界各国が、景気後退・金融不安に陥る中、新興国市場では「フィリピン」に熱い視線が送られる

ようになつています。なれば、2022年のフィリピンの好景気



フィリピンの首都マニラ



フィリピン取引所があるボニファシオ・グローバルシティ

引消費のり、をPの全そのこへ程給料の半分度を送金するとも多額額はGDの10%を超えておの爆発的な消費をけん引します。

急成長を遂げる フィリピン経済

驚異のGDP上昇率



町田健登氏(ライフソフト合同会社代表のプロフィール) 筑波大学卒業後、外資企業営業職を経て人材派遣会社のフィリピン駐在員。現地日系フィリピン金融ホールディングスの役員に就任。31歳で無借金、純資産1億円を達成。2020年、ライフソフト合同会社を立ち上げ独立。現在は、ファイナンシャルプランナーとして活躍するほか、在日フィリピン商工会議所理事、大妻女子大学 大妻マネジメントアカデミー 講師など社会面・教育面でも活躍。「フィリピン投資入門」「フィリピン株を推すこれだけの理由」を出版。アイアンマンレース完走やキリマンジャロ山登頂など、冒険家としても活躍する。

が続けるのでしょうか? 1つ目の理由は、「圧倒的な人口増加」です。現在のフィリピン人口は、日本とほぼ同じ約1億1200万人ですが、圧倒的に違うのは平均年齢が24歳であること。生産労働人口が多く消費が活発。

前年同期比GDP上昇率は、驚異の7・6%。フィリピンもウクライナ戦争の影響を受け、物価上昇・金利上昇していますが、その勢いは衰えず、フィリピンの統計庁による2023年1月〜3月でのGDPは前年同期比6・4%

語が公用語であり、得意な英語を活かして、海外で働く方も多いです。フィリピンの最低賃金は首都マニラで、現在のレート換算、1日1500円ですが、海外で働けば、年収が10倍も夢ではありません。出稼ぎ労働者は、給料の半分程度を母国へ送金することも多く、その送金額全体はGDPの10%を超えており、国内での爆発的な消費をけん引します。

3つ目の理由は、外貨による消費の牽引です。出稼ぎ労働者による仕送りの結果、米ドル、ユーロ、カナダドル等々、多種多様な外貨がフィリピンへ流れ込みます。フィリピンも2022年はドル高ペソ安になりましたが、ペソ安が進むほど、外貨はより多くのペソに両替可能なので、同じ仕送り金額で、より多くのものを買えるバーゲン状態に。さらに消費が加速します。

フィリピンの一人当たりGDPは3500ドル前後であり、日本の感覚でいうと1970年代に当たります。ドゥテルテ前大統領が掲げた大規模インフラ政策を、現政権も引き継ぎ、2025年にはフィリピン初の地下鉄開通。大規模なインフラ整備が経済を底上げします。そして、リーマンショックの再来がさやかれる中、フィリピンの株式市場も注目が集まっています。